

平成27年度アジア情報研修 イントロダクション

平成27年9月17日(木)
国立国会図書館関西館
アジア情報課 富田圭一郎

目次

- 1 本日の研修は
- 2 目的
- 3 政府情報（法令や統計）を一次資料・情報にあ
たって調べるとは
- 4 一次資料・情報を調べるメリット

1 本日の研修は

- 実習が中心
 - 中国と東南アジア諸国の政府情報（法令や統計）を、一次資料・情報にあたって調べる実習です
 - 相互に学び合う
 - グループ内で議論しながら実習を行います
 - 多様な属性の方が参加
 - 図書館員、研究者・院生、省庁・自治体職員など
- 皆様と共に作りあげる研修です


2 目的

- 皆様それぞれが、アジア資料・情報に関して、何か1つ新たな「発見」をすること
- ✓ ご自身が調査に取り組み、互いに情報交換することで、より多くの「発見」が得られ、知識が定着します
- ✓ 「発見」とは、調査方法だけでなく、他の属性の人の考え方や得意分野など様々
- ✓ 「話を聞いて理解する」だけではありません
- 最大の目的は、皆様それぞれが、主体的に何かを「発見」することです

3 政府情報(法令や統計)を一次資料・情報にあたって調べるとは

- 政府情報(法令や統計)は
各国の事情を調べる際に把握しておくべき基礎的な情報(事実関係とデータ)
- 一次資料・情報とは
ある機関や個人が刊行・発信したオリジナルなもの
他人によって編集・加工されていないもの
- 世の中に流通している情報
一次情報と二次情報があります

3 政府情報(法令や統計)を一次資料・情報にあたって調べるとは



種類	特徴	留意点
二次情報① 報道 (新聞記事、ウェブのニュース等)	課題を発見するきっかけとなる、あるいは課題が明確化された情報	我々がよく目にする情報で、誰でも簡単に入手できる。 信頼性が高くない情報も含まれるので、これのみに依存できない。
二次情報② 論評 (図書、雑誌論文等)	専門家、研究者がその課題を論評・分析している情報	情報検索に慣れた人(図書館員等)なら容易に見つけられる情報。 ある程度信頼性は高いが、一次情報を把握せずに読むと、十分に理解できないおそれもある。
一次情報 (法令・政府情報、統計等)	認識された課題を客観的に裏付ける情報 (事実関係やデータ)	各機関や個人が公表している情報。 内容が必ず正しいとは言えないが、報道や論評を行う際の基礎となる。 これを調べただけでは記事・論文にならないので、研究者でも疎かにしがち。地道な調査を厭わない人だけが把握できる。

(注) 松下圭一『政策型思考と政治』東京大学出版会, 1991, pp.152-153、土山希美枝「質問力を上げよう 第2回 あなたの一般質問を政策にたどりつかせるための戦略の話」『議員navi』42号, 2014.3, p.27をもとに作成。

3 政府情報(法令や統計)を一次資料・情報にあたって調べるとは

■ 一次資料・情報を調べるとは

- 報道や論評（他人が書いた・言ったこと）を鵜呑みにせず、自分で事実関係やデータを確認する（「裏をとる」）作業
- 少し手間がかかりますが、それほど難しくありません

4 一次資料・情報を調べるメリット

- レファレンスサービス担当の図書館員は
玉石混交の情報から正確な情報を把握して案内する「**確かな情報へのナビゲーター**」となります
- 研究者・大学院生は
研究成果の質が保たれます
- 中央省庁・地方公共団体、企業の方は
自身が携わる業務が成果を挙げる確率が高まります

* 今治市の例

(参照:「中国「悪意の商標出願」「地名は財産」守る意識を」『読売新聞(大阪)』2015.2.1, p.31)

➤ すべての方にとって、仕事の質が向上します